

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室そらま芽			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日		～	令和 7 年 7 月 24 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	73	(回答者数)	69
○従業者評価実施期間	令和 7 年 7 月 1 日		～	令和 7 年 7 月 10 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 8 月 20 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同学年での活動を基本としているので、年齢に応じた課題を提供し、集団の中の一員としての行動を話し合い活動、ゲーム、ロールプレイなど通して学んでいる。	集団行動の中で実際に起こりうる場面や状況の中で解決方法を知り、行動を修正できるように、子どもたちそれぞれの困り具合、特性などを理解し特性に応じた支援を行っている。	学んだ行動修正がここ(事業所)ではできる、理解してくれる支援者がいる状況ならできるに留まらず、学校や地域社会でもできるように支援を継続し、学校(集団)生活が楽しいと感じられるように応援していく。
2	粗大運動、手先課題など苦手なことにも、同学年の仲間と共に頑張る気持ちを持ちながら互いを認め、励まし合うことができる。	一人ではなかなか取り組む気持ちになれないことも「みんなと一緒に頑張る」「やってみようかな」と思う気持ちを引き出しながら苦手な課題と向き合い、「やったらできた」「やってよかった」につなげるようにしている。	簡単にできるようになることばかりではなく、できないことと向き合うことは辛いものだと理解した上で一人ひとりの気持ちに寄り添い、できるまで支援し続ける。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館、地域との交流などが難しいこと	近隣のグラウンドや公園に出かけて身体を動かしたり、季節を感じながら散歩するなど活動する中で、行く道中に出会う人と挨拶を交わしたり、公園で遊んでいる子供たちに声をかけて一緒に遊ぶなど自然な形で交流を大切にしているが、個人情報観点から交流を控えたいと考える方もいるため、力を入れた取り組みになっていない。	希望やニーズ、利用しているおさまの要望、声をひろいながら、必要に応じて交流する場や機会を検討していくようにする。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会が少ないこと	職員が研修会や勉強会などに参加して学び、得た知識や情報をモニタリングや困りごととして相談があった際に参考にさせていただけるようにお伝えしたりはしているが、ご家族向けに研修会を企画して開催する環境が整わないので、さまざまなイベント・お話しなどの案内や情報提供は提示などで行っている。	さまざまなイベント、お話し、市町からの案内などを掲示するだけでなく、送迎時に積極的にお声がけするなど目に留まるような形で案内をしていく。 ニーズに合わせて情報を収集し、ご家族へつなげていくようにする。研修会開催についても検討をしていく。
3			